4がつのえんだより

太陽の子保育園　平成30年4月号

暖かな春の陽気と共に、新年度がスタートしました。また一つお兄さん・お姉さんになって、ちょっと得意げな顔をしている子どもたちのかわいい表情を見ていると、これからの一年がとても楽しみですね。

21名の新しいお友達を迎え、総勢113名の園児と共に、職員一同チームワークをしっかり組んで、子どもたちひとり一人に寄り添った丁寧な保育を進めていきます。今年度もご支援・ご協力の程よろしくお願いします。

お願い

お子さまたちが安心して楽しい保育園生活を送れますように、下記のことに配慮していただきますようお願いいたします。

◎早寝早起き、朝食をとる、排便をするなど、良い生活習慣を身につけましょう。
◎持ち物には、すべて名前をご記入ください。
◎動きやすい服装・靴にしましょう。
・ひっかかりが少ない服　・体や足のサイズに合ったもの

毎朝必ず健康観察をお願いします

子どもたちは新しい環境や緊張のため、疲れが出やすくなります。普段と様子が違う場合、登園時に声をかけてください。

【ポイント】
1 睡眠……睡眠は十分ですか?
　機嫌は良いですか?
2 顔色、食欲……顔色は良いですか?
　ご飯はいつもと変わらないですか?
3 肌のようす……ブツブツが出ていませんか?
4 全体……だるそうにしていませんか?
　下痢、便秘をしていませんか?

GW期間中に事務所の工事を行います

GW期間中 1 階・2 階の事務所及びホール扉の改修工事を行います。工事期間中保護者の皆様には何かとご迷惑をおかけすると思いますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願いします。工事の詳細については後日改めてお知らせさせていただきます。

4月の予定

9～13	身体測定
11(水)	音楽指導(幼児)
12(木)	避難訓練
13(金)	チューリップ畑(4・5歳)
17(火)	体育指導(幼児)
19(木)	職員研修
20(金)	職員会議
20(金)	調理保育(らいおん)
24(火)	保育参加・懇談会(らいおん)
25(水)	春の健診
26(木)	こいのぼり飾り
27(金)	お誕生日会

5月の予定

2(水)	こどもの日会
10(木)	音楽指導(幼児)
14～18	身体測定
15(火)	職員研修
16(水)	保育参加・懇談会(くま)
18(金)	調理保育(くま)
21(月)	体育指導(幼児)
21(月)	職員研修
24(木)	歯科検診
25(金)	お誕生日会
28～6/1	職場体験(羽2)
29(火)	避難訓練
30(水)	懇談会(ひよこ)

4/28(土)は親子遠足

午前 9:55 現地集合(予定)
昭和記念公園

詳しい内容は後日しおりを配布致します。

お知らせ

平成30年度年間予定は、4月中旬に配布予定です。お待たせして申し訳ありませんが今しばらくお待ちください。

親子でいっしょに 五感体験のすすめ

シンプル育児の正解(主婦の友社)より
お話し　大島清先生(京都大学名誉教授・医学博士)

**知識よりもまず豊かな実体験をたっぷりと。
自分の足で歩くこと、砂や水の感触を楽しむこと…
生きる力をはぐくむカギは、
身近な体験の中にこそあるのかもしれません。**

五感体験で「生き物としての感性」を育てよう

最近では、ごく幼いころからテレビやビデオ、テレビゲームなどに接する子どもがふえていますが、これらの遊びはすべて視覚と聴覚だけに偏っているところが問題です。

人間の初期の発達に特に大切なのは、視覚、聴覚よりもむしろ臭覚、味覚、触覚といった動物的な感覚です。幼児期は、五感をバランスよく使うような遊びをたくさんさせることが大事なのです。

テーマパークより近所の公園で自然体験を

五感をフルに使う遊びといえば、まず自然とふれあうことです。青い空に浮かぶ白い雲。風が木の葉を揺らす音や鳥のさえずり。花や草のにおい。泥や砂、水の感触。都会の公園にも、ゲームセンターやテーマパークではけっして得られない豊かな刺激があります。休みの日には、少し遠出をして森や川、海などふだん接することのできない、より大きな自然にふれあう機会を作りましょう。虫を追いかける、冷たい川の水につかって魚をつかまえる、はるかな水平線や地平線に沈む夕日をながめる、落ち葉を踏みしめて森を歩くなど、非日常な自然体験を通じて味わった感動は、子どもの動物的な感性を磨くことにつながります。

語りかけや絵本で豊かな言葉体験を

人間は言葉で思考する生き物です。思考や計画、判断という一連の作業も、すべて言葉があればこそできること。親はまず生まれたときから子どもにたっぷりと語りかけてあげましょう。絵本の読み聞かせやわらべ歌、童謡を歌ってあげたり、外に出てさまざまな人とふれあうことも、子どもの言葉を豊かに育てることにつながります。

言語能力は生きた言葉にふれることで育つので、テレビやビデオのつけっぱなしはかえって逆効果。「テレビは番組を選び、時間を決めて楽しむ」というルールを親子で守りましょう。

水や砂、どろんこで遊ぶ楽しみをたっぷりと

子どもはみんな本能的に水や砂、土が大好き。砂場や土の上をはだしで歩いたり、泥だんごを作ったりという体験は、子どもの脳のソフトウェアをバランスよく発達させるためには、とても重要です。親が「きたない」「汚れる」とストップさせてしまうと、たくましい感性が育つチャンスをのがすことになるので、やりたがるときに思う存分やらせてあげましょう。家庭で花や野菜を育てることも、身近な土体験としておすすめです。

親子でいっしょに、いっぱい歩こう

近ごろの生活はどこへ行くにも車を使うために、自分の足で歩くことが絶対的に減っています。幼いころからこういう生活に慣れてしまうと、「人間は自分の足で歩くもの」という感覚もぼやけてしまいます。まずは親が意識して「歩く」生活を取り戻しましょう。自然にふれあいながら、「自分の足で歩かなければ、目的地にはつけない」という厳しさを体験させることも必要です。

あえて不快な感覚も教えたい

暑さ寒さに耐えられない、虫やカエルをさわれない、泥で汚れることをいやがる……。快適で便利な暮らしの中で育つ子どもたちは、きたないもの、気持ちが悪いもの、不快なことに対する耐性がたいへん低下しています。しかし、脳をバランスよく育てるには、快だけでなく、不快な刺激も絶対に必要です。過保護にならずに、子どもが快と不快の両方の刺激を体験できるような生活が、子どもの中にたくましく生きる力を育てます。